

# 男性の若年時と高齢時の適合服装色の差異

A19AB140 山中悠

## 1. はじめに

現在、日本では医療技術の進歩や生活環境の改善などにより高齢者比率が年々増加している。高齢化率が上昇し、超高齢社会に突入した日本において、中高年層を「ファッションを楽しむ消費者」として捉えた商品企画に転換させることはアパレル市場においても意味深い。

しかし、女性のファッションについての研究は数多くあるが、中高年男性のファッションに関する研究は少ない。そこで、高齢者にとっての老後の生活をより豊かなものにするために本研究では、男性の適合服装色が若年時と高齢時でどのように異なるかについて、顔面の加齢再現ソフト「Oldify」とデザインシミュレーションソフト「4D-boxPLANS 4」を用いて試作し、検討することとした。

## 2. 方法

### 2-1 若年男性の顔面イメージ評価

高齢時のイメージを検討するモデルを選出するため先行研究を参考に「やさしい-きつい」「積極的な-消極的な」「陽気な-陰気な」「男性的な-女性的な」「上品な-下品な」「年とって見える-若く見える」「奇抜な-平凡な」「派手な-地味な」「荒々しい-おとなしい」「好感が持てる-好感が持てない」の10形容詞対を用いてSD法による5段階評定の官能検査を行った。

### 2-2 年齢による服装色の適合性

上記の結果をもとに選出された3名の若年男性モデルを「Oldify」を用いて80歳程度に老けさせ加工前（以後「若年時」と記す）と加工後（以後「高齢時」と記す）の顔面試料、計6顔面を作成した（図1）。その後4D-boxPLANS4を用いて服装色をそれぞれ8色に色彩変換させた（図2）。作成した試料を1種ずつ提示し、女子大生70名を被験者として2-1と同様の10形容詞対に「顔と服装色が合う-顔と服装色が合わない」を加えた11形容詞対についてSD法による5段階の官能検査を実施した。得られた評価から平均官能量を算出するとともに、因子分析及び数量化Ⅰ類にて関与する要因について分析し、検討した。



図1 選出された若年男性モデルとその高齢時の顔面試料



図2 実験試料（例）

## 3. 結果および考察

### 3-1 若年男性の顔面イメージ評価

官能検査の結果をクラスター分析（Ward法）にかけ、顔面の印象についてのグループ化を行った。その結果をもとに各形容詞対における官能量が各々のクラスター内平均に近く、かつ、顔面写真を老けさせる画像加工を施したときに自然な印象の3名のモデル写真を、次の実験「年齢による服装色の適合性」の顔面試料として選出した。

### 3-2 年齢による服装色の適合性

#### (1)官能検査結果

11形容詞対における官能検査結果をもとに、全モデルの平均官能量を算出した（図3）。紙面の都合でここでは「顔と服装色が合う-顔と服装色が合わない」の形容詞対を取り上げる。若年時と高齢時ともに低明度青、無彩色で「顔と服装色が合う」と評価されている。逆に、モデルAとモデルBの高彩度赤において若年時よりも高齢時の方が「顔と服装色が合わない」と評価されている。

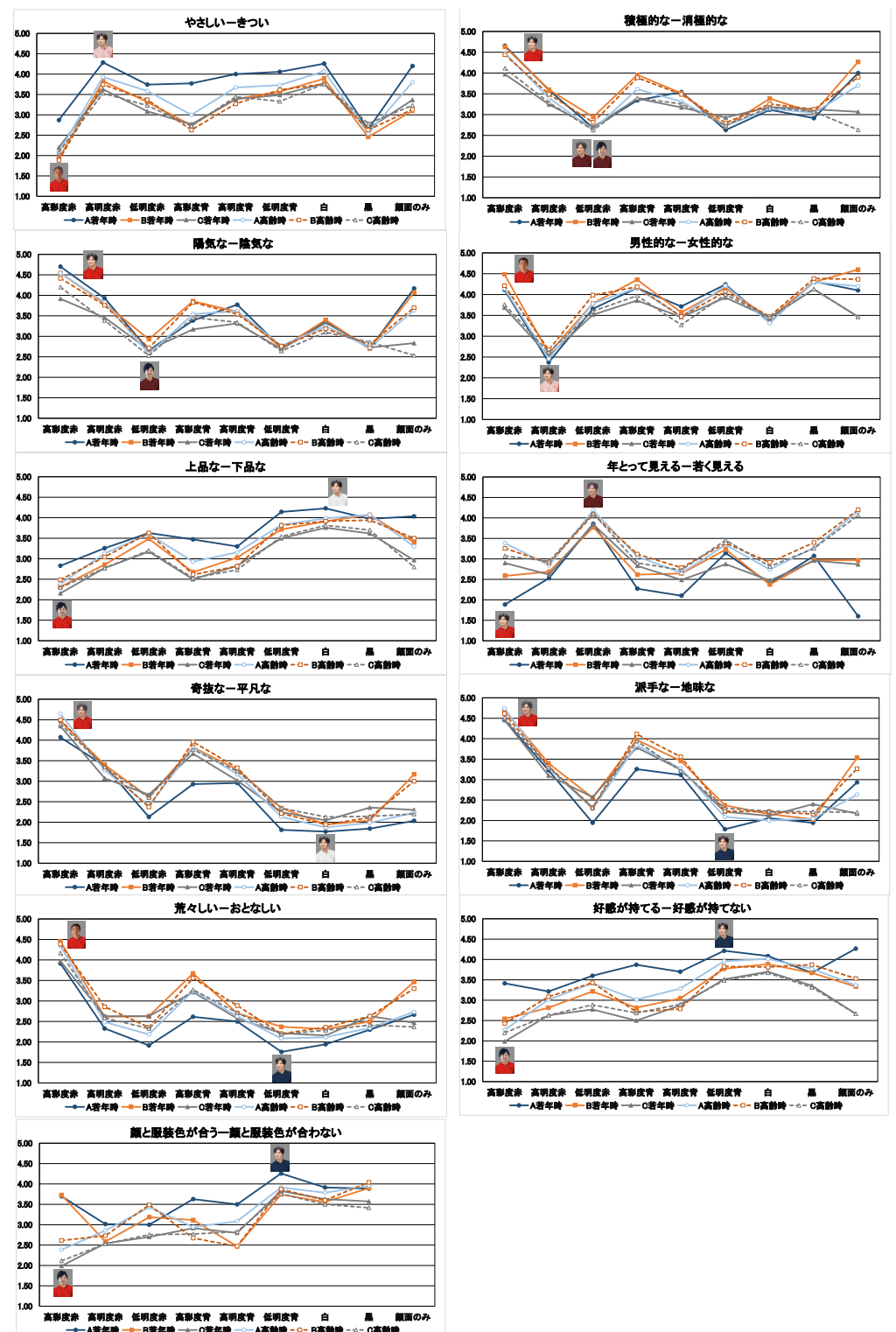


図3 年齢による服装色の適合性の平均官能量



(2)因子分析結果

これらのイメージに關与する要因を検討するために、得られた平均官能量をもとに、因子分析（最尤法）を行いプロマックス回転後の結果を図4、図5に示した。固有値1.0以上で若年時では3因子が、高齢時では2因子が抽出された。若年時では「評価性」「活動性」「格調性」3因子抽出されたが、高齢時では「格調性」が「評価性」に吸収され、「評価性」「活動性」の2因子が抽出された。このことから若年男性の方が複雑な因子構造であると推察される。

形容詞対	因子			共通性
	1	2	3	
上品な－下品な	0.983	-0.655	-0.426	0.977
好感が持てる－好感が持てない	0.944	-0.413	-0.400	0.920
奇抜な－平凡な	-0.917	0.820	0.493	0.969
派手な－地味な	-0.877	0.868	0.514	0.969
顔と服装色が合う－合わない	0.750	-0.176	0.081	0.799
積極的な－消極的な	-0.611	0.984	0.510	0.983
陽気な－陰気な	-0.566	0.982	0.253	0.993
年とって見える－若く見える	0.088	-0.675	0.020	0.651
やさしい－きつい	0.500	-0.296	-0.920	0.894
荒々しい－おとなしい	-0.790	0.799	0.800	0.989
男性的な－女性的な	0.151	-0.016	0.718	0.770
寄与率(%)	59.1	18.1	17.1	
累積寄与率(%)	59.1	77.1	94.3	

因子抽出法: 最尤法  
回転法: Kaiser の正規化を伴うプロマックス法

因子得点から關与する試料

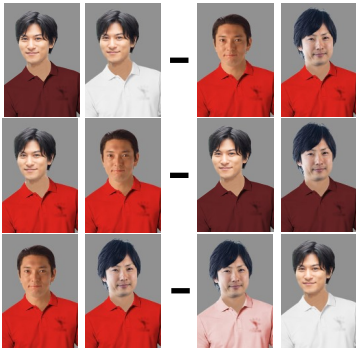


図4 若年時の因子分析結果

形容詞対	因子		共通性
	1	2	
派手な－地味な	0.980	-0.884	0.998
奇抜な－平凡な	0.960	-0.913	0.990
荒々しい－おとなしい	0.953	-0.741	0.908
積極的な－消極的な	0.948	-0.643	0.921
陽気な－陰気な	0.938	-0.699	0.882
やさしい－きつい	-0.636	0.438	0.413
年とって見える－若く見える	-0.323	0.166	0.123
上品な－下品な	-0.869	0.983	0.994
好感が持てる－好感が持てない	-0.821	0.961	0.937
顔と服装色が合う－合わない	-0.779	0.947	0.902
男性的な－女性的な	0.048	0.206	0.153
寄与率(%)	68.8	17.9	
累積寄与率(%)	68.8	86.7	

因子抽出法: 最尤法  
回転法: Kaiser の正規化を伴うプロマックス法

因子得点から關与する試料



図5 高齢時の因子分析結果

(3)数量化Ⅰ類による分析結果

イメージに關与する要因について顔面、若年時/高齢時、服装色を説明変数、平均官能量を従属変数として数量化Ⅰ類により分析した結果を表1に示した。服装色が各イメージに最も關与し、顔面が高齢時であっても服装色より年齢要因を超える色彩もあることが判明した。

4. まとめ

本研究では、男性の若年時と高齢時の服装適合色にどのような差異があるかについて、服装色を変化させて検討した結果、若年時、高齢時とともに低明度青、無彩色で顔と服装色が合う。またイメージに關与する要因では、服装色が各イメージに最も關与し、顔面が高齢時であっても服装色より年齢要因を超える色彩もあることが判明し、着用する服装の色彩の重要性が認識される結果であった。

表1 数量化Ⅰ類による分析結果

アイテム	カテゴリ	やさしい－きつい			積極的な－消極的な			陽気な－陰気な		
		カテゴリ数量	単相関	偏相関	カテゴリ数量	単相関	偏相関	カテゴリ数量	単相関	偏相関
顔面	A	0.263			-0.017			0.058		
	B	-0.127	0.294	0.755	0.124	0.183	0.606	0.088	0.180	0.626
	C	-0.136			-0.107			-0.146		
若年時/高齢時	若年時	0.069			0.013			0.014		
	高齢時	-0.069	0.110	0.395	-0.013	0.026	0.107	-0.014	0.024	0.107
色	赤	-1.076			1.065			1.065		
	青	-0.312			0.279			0.220		
	低明度赤	0.135			-0.585			-0.642		
	低明度青	0.378	0.914	0.963	-0.562	0.953	0.970	-0.606	0.958	0.974
	高明度赤	0.571			0.115			0.372		
	高明度青	0.274			0.062			0.210		
	黒	-0.634			-0.264			-0.568		
	白	0.664			-0.109			-0.051		
定数項		2.747			2.681			2.680		
重相関係数		0.967			0.971			0.975		
重相関係数の2乗		0.935			0.943			0.950		

アイテム	カテゴリ	男性的な－女性的な			上品な－下品な			年とって見える－若く見える		
		カテゴリ数量	単相関	偏相関	カテゴリ数量	単相関	偏相関	カテゴリ数量	単相関	偏相関
顔面	A	0.021			0.221			-0.073		
	B	0.108	0.177	0.657	-0.004	0.313	0.840	0.051	0.104	0.312
	C	-0.129			-0.218			0.022		
若年時/高齢時	若年時	0.000			0.026			-0.198		
	高齢時	0.000	0.001	0.003	-0.026	0.046	0.220	0.198	0.393	0.777
色	赤	0.354			-0.861			-0.146		
	青	0.401			-0.487			-0.196		
	低明度赤	0.009			0.179			0.982		
	低明度青	0.390	0.963	0.978	0.484	0.927	0.977	0.244	0.856	0.937
	高明度赤	-1.175			-0.302			-0.242		
	高明度青	-0.220			-0.297			-0.427		
	黒	0.547			0.622			0.161		
	白	-0.306			0.663			-0.375		
定数項		2.287			2.727			3.006		
重相関係数		0.979			0.979			0.948		
重相関係数の2乗		0.959			0.959			0.899		

アイテム	カテゴリ	奇抜な－平凡な			派手な－地味な			荒々しい－おとなしい		
		カテゴリ数量	単相関	偏相関	カテゴリ数量	単相関	偏相関	カテゴリ数量	単相関	偏相関
顔面	A	-0.140			-0.133			-0.189		
	B	0.080	0.119	0.559	0.106	0.113	0.607	0.173	0.218	0.746
	C	0.060			0.027			0.016		
若年時/高齢時	若年時	-0.058			-0.037			-0.043		
	高齢時	0.058	0.069	0.367	0.037	0.043	0.276	0.043	0.064	0.310
色	赤	1.504			1.614			1.475		
	青	0.761			0.852			0.529		
	低明度赤	-0.437			-0.636			-0.392		
	低明度青	-0.720	0.975	0.984	-0.803	0.982	0.989	-0.597	0.954	0.980
	高明度赤	0.399			0.307			-0.149		
	高明度青	0.265			0.342			-0.066		
	黒	-0.820			-0.836			-0.263		
	白	-0.951			-0.839			-0.537		
定数項		3.099			3.033			3.268		
重相関係数		0.984			0.989			0.981		
重相関係数の2乗		0.969			0.978			0.962		

アイテム	カテゴリ	好感が持てる－好感が持てない			顔と服装色が合う－顔と服装色が合わない		
		カテゴリ数量	単相関	偏相関	カテゴリ数量	単相関	偏相関
顔面	A	0.296			0.231		
	B	-0.004	0.436	0.783	0.013	0.341	0.579
	C	-0.292			-0.245		
若年時/高齢時	若年時	0.050			0.076		
	高齢時	-0.050	0.090	0.252	-0.076	0.133	0.267
色	赤	-0.762			-0.468		
	青	-0.303			-0.215		
	低明度赤	-0.017			-0.129		
	低明度青	0.559	0.825	0.922	0.673	0.797	0.857
	高明度赤	-0.338			-0.513		
	高明度青	-0.138			-0.363		
	黒	0.374			0.573		
	白	0.626			0.442		
定数項		2.764			2.778		
重相関係数		0.938			0.877		
重相関係数の2乗		0.879			0.770		

5. 謝辞

本研究に際し、ご指導賜りました石原久代教授をはじめ、アンケートに協力して下さった皆様に深く感謝申し上げます。

6. 参考文献

- 1) 石原久代 伊藤優里：「女性の若年時と高齢時の適合服装色の差異」、日本繊維製品消費科学会誌、2017
- 2) 石原久代 栃原きみえ 梶山藤子：「着装者の顔面の形態的要素と服装色との関連性」、1985
- 3)データクラフト：素材辞典 Vol.2（人物・男性編）株式会社データクラフト、2007
- 4)データクラフト：素材辞典 Vol.5（ビジネス－オフィスシーン）株式会社データクラフト、2006
- 5)読売新聞社：大「顔」展図録、1999